

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：37129

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K18462

研究課題名（和文）持続可能な医療体制にむけた医療職の多様な働き方に関する国際的調査研究への展開

研究課題名（英文）Development of an international survey and research on diverse work styles of healthcare professionals toward a sustainable healthcare system

研究代表者

榑木 晶子（Chishaki, Akiko）

福岡看護大学・看護学部・教授

研究者番号：60216497

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,600,000円

研究成果の概要（和文）：医師の長時間労働が常態化している我が国の女性医師比率は低く離職も見られる。文化的背景の異なる海外施設において医療職の現状や労働環境、健康に対する意識調査を行い、その現状を研究代表者が行ってきた本邦の5つの大学病院の調査と比較しグローバルな視点から問題点を検討した。まず、海外医療連携施設としてフィリピンのSt. Luke's病院で労働環境や健康に関する独自の質問票調査を施行した。さらに、フィリピンの医療職の現状を共有するためにウェブ上でワークショップを開催し、本邦における医療職の働きやすい環境の構築に向けた方策を検討した。医療制度や文化背景の違いによる医療人の労働ストレス等に差が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

介護や自身の疾病・障害と共存した就労など、多様な医療人が仕事を継続するための労働環境の再構築が求められている。海外の異なる社会状況と比較し、高度医療専門資格を有効に活用して就業を継続できる要因を明らかにすることは世界に先駆けて少子超高齢社会が進む我国の様々な職場における「働き方改革」を考えていく上で大変意義深い。これまでの社会的性別役割分担意識を無くし医療職が活躍できる場を作ることは、仕事か家庭か、といった古い択一的な概念を捨て他者に寛容なユニバーサル社会を形成することにも繋がる。さらには少子化の進行をくい止める一助となる可能性や日本全体の社会構造の変革に挑戦することにも繋がる。

研究成果の概要（英文）：The ratio of female doctors in Japan, where long working hours are the norm for doctors, is low and turnover is also observed. The current status of the medical profession, working environment, and attitudes toward health were surveyed at overseas facilities with different cultural backgrounds. The results were compared with those of five university hospitals in Japan, where the principal investigator has conducted surveys, to examine the issues from a global perspective. A questionnaire survey on working environment and health was administered at St. Luke's Hospital in the Philippines as an overseas medical collaboration facility. Furthermore, a workshop was held on the web to share the current situation of the medical profession in the Philippines and to discuss measures to create a comfortable working environment for the medical profession in Japan. There were some differences between the two countries that may be due to differences in health care systems and cultural backgrounds.

研究分野：社会学およびその関連分野

キーワード：女性医療人 キャリア継続 労働衛生的視点 精神的健康度 高度専門職

## 1. 研究開始当初の背景

研究を開始した 2021 年の我国の医療施設に従事する医師数は約 32 万人、その中の女性医師は約 7.4 万人(23%)であった。医学部生の女子比率は 1985 年に 20%を超え、35 年を経た当時 34%と増加したが、女性医師比率は前述のように 23%に留まっていた。このように女性医師の定着率は未だに低く都市部を除いて特に地方の医療現場は慢性的な医師不足がみられる。少子超高齢社会の進展で、今後労働力人口の減少と高齢化による労働市場の人手不足が予想されている<sup>1)</sup>。医療・保健・福祉分野で働く医療従事者数も十分ではなく、人口千人当たりの医師数は 2.6 人で、OECD 加盟国中、下位 6 位と低い<sup>2)</sup>。本邦では高騰する医療費のもとで、医師数は OECD 平均に比べると少なく、受診件数が多いため過重労働を強いられる医療提供体制が続いている。長時間労働による心身への影響が指摘され、様々な研究が行われているが、高度専門職の多い医療現場は、仕事の対象が人命であるため、そこで働く人々の健康や職場環境に関する労働衛生的視点からの分析は少ない。医療の現場は人の命を扱うため「聖域」とみなされ、医療現場の職場環境や働き方については一般企業等の職場と異なり、評価対象となりにくく、評価のゴール(企業では利益追求)も設定できにくい状況が見られる。また、我国では特に就労女性医師数は OECD 諸国の中でも少なく、妊娠や出産によって就業できない時期があるのは女性特有の現象であるが、女性医師の短時間労働や離職なども多い。固定的性別役割分担意識が未だ根強く、育児を担う女性医師はこの過重労働に対応できず離職を強いられることが多々見られる。このため、女性医師の年齢別就労率は子育て世代である 35 歳前後で 76%まで低下する M 字カーブを描く。このような医師全体の長時間労働や固定的性別役割分担意識を変えてゆかねば持続可能な医療体制の構築は困難と考えられる。

非正規雇用等の不安定就労の増加により、心身の健康問題や経済上の不安による少子化が加速する今日、「資格」に基づく職業は身分が保障されている点で女性の職業として有利である。その中でも社会的地位と生きがいを保てる医療資格職は、女性を自立させ安定した働き方ができるロールモデルとしてその在り方に注目が集まる。国際的にも、医療職は生命や健康にかかわる行為を行うためニーズが高い。特に人口増加の激しい途上国では教育システムが追い付かず、医師・看護師の偏在や不足が社会課題となっている。東欧、北欧を中心に女性医師割合は 5 割以上と高く、女性医師割合の高いスペインは、医療や介護は女性向きという伝統的な考えに加え、女性医療職の公的機関での登用が進んでいる状況が報告されている<sup>3)</sup>。即ち、職業意識や就業システムの工夫次第で医療職における女性参画は十分可能と考え、その既存のシステムの課題や望ましい条件を探るべく申請者は 2007 年度文部科学省大学改革等推進事業「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」に採択され女性医療人支援プロジェクトを立ち上げた。現在まで続けている九州大学病院きらめきプロジェクトにおいて女性医療職等の働き方支援事業への参画を通じ、普及可能な効果的支援策として働き続けることに困難を伴う医療職が復職できるよう医局等の枠組みから離れ短時間勤務での就労を可能にする仕組みや、各医療職の多様な背景を配慮したプログラムを提供すると同時に、長期的な視点で将来の医療を担う世代へ多様性を尊重する価値観、マイクロアグレッションやアンコンシャス・バイアスへの気づき、具体的対話を促すコミュニケーション術についての教育など表面的な対策に留まらない支援を行ってきた。様々な教育機関とも密接に連携を図り本取組みが九州大学病院のみにとどまらず他医療機関から参考にされる支援事業を展開し、相互のプロジェクトを評価し合うことによって、より良い支援体制の構築もこれまで目指してきた。このような支援策が目標とする働き方や医療体制の実現に役立っているか、評価アンケートの実施や成果報告会などを通じフィードバックを得る機会を設け、方向性の調整・改訂を行うことが必要である。さらに、申請者は 2019-2021 年(延長申請にて 2022 年)に挑戦的研究(萌芽)にて「女性医療職者におけるキャリア継続の 10 年の変遷を追う」というテーマで研究を立案した。従来、医師や看護師を含めた女性労働者の就労支援として妊娠・出産・育児期を中心とした取り組みが行われてきたが、妊娠出産育児に限定した支援は、一時的・部分的なものであり十分でない。近年は、非婚者も多く、世帯当たりの子供数は少なく、若い男女では伝統的性別役割分担意識も徐々に薄れてきている。超高齢社会の出現により、家族の介護や就労者自身の疾病・障害と共存した就労など、多様な人が仕事を継続するためには労働条件の再構築が求められている。離職や休職など流動化しやすい女性の就労が、高度医療専門資格を有効に活用して就業を継続できる要因を探索し明らかにすることは、少子超高齢社会が進む我国の様々な職場における「働き方」を考えていく上で非常に意義があり応用可能であると考えられた。本邦の固定的性別役割分担意識の壁は低くなってきたものの欧州・北欧に比べると未だに高く、現在、国内の 5 大学病院で行った医療職者約 3000 人のデータを解析し、看護師、医師、歯科医師、薬剤師、検査技師、放射線技師、その他の医療職者に分けて検討中である。

## 2. 研究の目的

2007 年に九州大学病院において「きらめきプロジェクト」を立ち上げて以来、久留米大学病

院における「元気プロジェクト」、佐賀大学医学部における「バルーンプロジェクト」も開始され、2010年に九州大学、佐賀大学、福岡大学で男女医療職の労働環境に対する意識を調査しており、2020年から21年にかけてさらに、九州大学、佐賀大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学の5大学病院において同様の調査も行った。本研究では、これまで行ってきた国内での調査と同等の内容で海外との比較を行うこととした。海外では北欧のように女性医師を活用し医療体制の均衡が良い国から、インドネシアのように性別役割分担意識が本邦より強い国もある。比較的女性医療職が活躍しているフィリピンでの調査を行い、異なる文化・社会の国における現状を、申請者が行ってきた本邦の10年間の医療職の労働環境や健康に対する意識調査の結果と比較し、グローバルな視点から打開策を構築することを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### (1)対象

2020年3～11月に九州北部の大学病院5か所で勤務する医療職者に対し、質問紙もしくはWebにて調査を行った。各病院で調査依頼書等を配布後(7,698部)最終的に3,036人分を有効回答として回収した(回答率39.4%)。本研究期間の開始された2021年4月よりこれらのデータの解析を開始すると同時にフィリピンでの調査を行うために連携のあるSt.Luke's病院との交渉を開始し、病院の医療職200人を対象とした。

#### (2)調査内容

調査票は無記名の自記入式で、下記のような調査項目を含んでいた。本邦で調査した内容を英訳し、St.Luke's病院の研究協力者Carolina Linda TapiaとVittoria VD. Velasquezとも検討し、英語版調査票を確定した。

- ・基本項目:職種、専門、教育歴、勤続、年齢、性別、婚姻・世帯状況、子どもの有無、雇用形態を調査した。
- ・職場環境の情報:勤務時間、努力 報酬不均衡モデル調査票を用いた。
- ・健康情報:精神健康調査(General Health Questionnaire: GHQ)<sup>4)</sup>、主観的健康、生活習慣等を用いた

健康状態はGeneral Health Questionnaire30(GHQ30)の得点と主観的健康感<sup>5)</sup>で「良くない」もしくは「あまり良くない」と回答した健康不良割合を用いた。職場環境から生じるストレスは努力-報酬不均衡モデルの日本語版調査票<sup>6)</sup>で評価し、努力と報酬の得点比を職業性ストレスとした。

#### (3)データ収集方法

アンケートはオンライン・データ集積管理システム(Research Electronic Data Capture: REDCap)の両方を用いて実施した。国内での収集は紙媒体とWebを併用した。収集されたデータは研究代表者の所属施設内に設置したサーバーに集約され、厳重に管理した。日本ではWebと紙媒体による調査、フィリピンではWebによる調査とした。

#### (4)解析方法

- ・職種、施設ごとに集計し、職場環境、健康指標、生活状況の我が国とフィリピンとの単純比較を行うことで各職場環境を特徴づける。
- ・年齢、婚姻等の生活背景など交絡要因を調整して多変量解析もしくは傾向スコアマッチング法を行い、各種要因と労働衛生上のより良いアウトカム指標との関連を探索した。
- ・組織や部署、職種といった複数の階層グループが存在するため、最終的にはマルチレベルモデルの多変量解析を行うことで、医療者のキャリア継続に重要な要因を明らかにしていく。

九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会の審査を経て(許可番号2019-361, 2020-63, 2020-255)実施した。また、各大学の倫理委員会の承認も得た。

### 4. 研究成果

#### (1)我が国とフィリピンの職種ごとの対象数

我が国の調査では7698人に配布し3335人より回収できたが、記入漏れなどの理由で最終的に3,036人を解析対象とした。男性931人、平均年齢36.2歳であった。職業的特性、夜勤の有無、患者対応の多寡とその責任の重さ、回答者の数から、以下の6群に分類した。看護師1821人、医師706人、歯科医師83人、薬剤師77人、診断関連医療職261人(診療放射線技師や検査技師)、治療関連医療職88人(臨床工学士、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士、その他:公認心理師、歯科衛生士、視能訓練士、医療技術職員)であった。診断関連医療職にまとめた診療放射線技師、検査技師は、診断や検査が主な仕事であり他の職種に比べると職務の中で患者と直接対応する時間は短い。一方、治療関連医療職にまとめた臨床工学士、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士等は治療の一役を担い患者と接する時間が長い職種として一群にまとめた。

St.Luke's病院に所属している医療従事者200名中、107名より回答を得た(回収率54%)。医師は62名(57.9%)、看護師は21名(19.6%)、薬剤師12名(11.2%)が含まれていた。

#### (2)対象の基本特性

対象者全体の年齢の中間値は35歳で、看護師が6群の中で最も若く(34.6歳)、医師が最も年

齢が高い(40.1歳)集団であった。学歴では医師、歯科医師、薬剤師は6年生卒業であり、博士号取得者は歯科医師で約68%を占め、医師(約40%)や薬剤師(約12%)に比べると多かった。看護師においては4年生卒業が約60%と診断関連医療職や治療関連医療職の40%台に比べると高い比率であった。治療関連医療職者は専門学校卒業が約30%を占めていた。雇用形態においては、看護師、薬剤師、診断関連医療職者、治療関連医療職者は正規雇用者が90%以上を占めていたが、医師は約83%、歯科医師は約70%であった。時短の非常勤で勤務しているのは歯科医師に約25%見られ最も多かった。非常勤職を除いた正規雇用者における労働時間は、月当たりの勤務日数も週あたりの労働時間も医師で最も長かった。月当たりの夜勤は看護師が、一番回数が多く、次が医師であった。給与体系では、非常勤が多い歯科医師に日給や時給が一番多く見られた。職位としては看護師、薬剤師、診断関連医療職、治療関連医療職においては約70%が役職なしの職員であった。回答者における婚姻状況は医師が約81%で一番高く、看護師では36%と最も低く、その他の職種ではほぼ同等で50%台であった。子供有りも医師では約70%と、看護師では最も低く30%、その他の医療職は40%台であった。

St.Luke's病院では年齢中間値は30歳と若く、女性が62%を占めていた。未婚が84%と高く、子供が居るのは17%であった。医師が60%を占め、看護師20%、薬剤師10%、その他の医療職が10%であった。職位は役職無しが90%を占めていた。

### (3)健康状態

このような調査対象者の心身の健康度を General Health Questionnaire と主観的健康観、睡眠時間により検討した。一般健康調査票 30(GHQ30)の総得点の平均値は全体では8.6点であり、看護師は9.8と最も悪く、医師や歯科医師では6点台で最も低かった。薬剤師、診断関連医療職や治療関連医療職で7-8点台と中等度であった。GHQ 7点以上の健康問題があると考えられる医療人が全体の56%に見られ、看護師では66%と最も多かった。医師、歯科医師はどちらも約40%であり、その他の医療職種は40-50%であった。主観的健康状態は、全体では50%がふつう、34%がよい〜とてもよいと答えており、その中でよいが約22%、とても良いが12%をしめていた。ふつうと答えている比率は全職種でほぼ50%と有意差はないが、とてもよいと答えたのは看護師では7.5%にすぎず、診断関連医療職でも約12%と低い傾向がみられたが、医師は約20%と一番高かった。睡眠時間に関しては約80%の対象が5~6時間台の睡眠時間であり、職種間でも有意差は無かった。主観的な睡眠感にも職種間で有意差は無く、50%台の医療職者が、まあまあ睡眠が取れているという答えであり、約30%が十分に取れていないという回答であった。

St.Luke's病院では、平均値は全体では9.2点であり、健康問題があるといわれるGHQ 7点以上の人は全体の51%であった。主観的健康状態は、全体では47%がふつう、29%がよい〜とてもよいと答えていた。

### (4)職業に関するストレス：努力 報酬不均衡モデル

報酬不均衡モデルに従って、仕事上の努力要素と報酬要素を測定して得点化し、バランス(努力/報酬)を検討した。全体では努力要素の得点の中央値は約16点、報酬要素は約47点、バランスは0.7であった。ストレスリスクは日本人標準値との差の比率をみたものであるが、看護師では努力要素の得点の中央値は約17.3点、報酬要素は約47点、バランスは0.7であった。一番ストレスリスクが高かった。努力要素は看護師が他の職種に比べて、有意に高く、報酬要素は治療関連医療職で最も低かった。その結果、努力と報酬のバランスは、看護師は医師、歯科医師、診断関連医療職より悪く、治療関連医療職は歯科医師、診断関連医療職より悪かった。

St.Luke's病院では、全体では努力要素の得点の中央値は約17.5点、報酬要素は約47.8点、バランスは0.71であった。

### (5)医療事故の経験

全体では、およそ50%に過去1年間に危機を感じる事が少しあったと答えている。まったく無かったと答えたのは歯科医師が一番多く11%であり、治療関連医療職においても8%と多かったが、看護師や薬剤師では約4%と少なかった。一方で、しばしば感じた者、実際におこした者を合計すると看護師と薬剤師では20%を越えていた。実際に事故をおこしたのは看護師と医師で約5%と他より高かった。

St.Luke's病院では、およそ36%に過去1年間に危機を感じる事が少しあったと答えている。まったく無かったと答えたのは15%であり、実際に事故をおこしたのは約10%と高かった。

### (6)人生への評価・満足

生きがいや趣味などに対する質問においては、3要素に集約して結果を示した。全体では3つとも9.4-9.8点であった。自分の趣味や家族とゆっくり過ごせないことにストレスを感じるのは医師が一番高く(10.2点)、自分の健康によいことをしたり、将来について考えられないストレスも医師で高かった(10点)。また、自分の時間管理ができないストレスは医師と歯科医師で高かった(>10点)。薬剤師、診断関連医療職や、治療関連医療職では低かった。

St.Luke's病院では、全体では、自分の趣味や家族とゆっくり過ごせないことにストレス10.8点、将来について考えられないストレスは10.1点、また、自分の時間管理ができないストレスは11点と本邦より高かった。

### (7)人的サポートの利用

情緒的支援は全体で17.6点、看護師や医師に比べると診断関連医療職者で一番低く、情動的支援は職種間で有意差はなく(16.8点)、実際の支援を受けているのは歯科医師が17.6点と一番高かった。

St.Luke's 病院では、3 項目とも 20 点前後あり本邦の結果より満足度が高かった。

#### (8)傾向スコアマッチング法を用いた本邦とフィリピンの比較

St.Luke's 病院に所属している医療従事者 200 名中、107 名より回答を得た（回収率 54%）。医師は 62 名（57.9%）、看護師は 21 名（19.6%）、薬剤師 12 名（11.2%）が含まれていた。先行調査として本邦の 5 大学病院にて施行した調査の回答 3119 名の結果より傾向スコアマッチング法を用いて、St.Luke's 病院 85 名（フィリピン群、P 群）と本邦 5 大学病院 598 名（日本群、J 群）を選択した。2 群間で評価項目を比較検討した。職業性ストレス指標である努力・報酬得点比は P 群が J 群と比べ有意に高く（ $0.7 \pm 0.4$  vs  $0.6 \pm 0.2$ ,  $P < 0.001$ ）、男女別でも同様の結果であった。一般的健康 GHQ では両群間に差はなかったが（43(50.5%) vs 275(45.9%),  $P = 0.55$ ）、P 群では J 群と比べ社会的活動障害に関する平均点が高く（ $1.8 \pm 1.7$  vs  $0.7 \pm 1.2$ ,  $P < 0.001$ ）、睡眠時間が短く主観的健康状態が悪かった（20(71.7%) vs 77(13%),  $P = 0.008$ ）。一方で、生きがいを示す評価項目はいずれも P 群では J 群と比べて有意に高かった。P 群では家事への負担感をより感じる人が多かったが、平均家事時間は J 群との間に差はなく、人的サポート資源への満足度も高かった。

また、職業別に傾向スコアマッチング法を用いて P 群・J 群を抽出した。医師は P 群  $n = 53$ 、J 群  $n = 371$ 、看護師は P 群  $n = 21$ 、J 群  $n = 149$  であった。医師では努力・報酬得点比は J 群と比べ P 群で有意に高く（ $0.7 \pm 0.2$  vs  $0.5 \pm 0.2$ ,  $P = 0.002$ ）、女性医師で同様の結果が見られた（ $0.7 \pm 0.2$  vs  $0.5 \pm 0.2$ ,  $P = 0.006$ ）。一般的健康 GHQ は両群間に差はなかったが、社会的活動障害やうつ傾向は P 群で有意に多く見られた。P 群では J 群と比べ睡眠時間が短いと回答したものが有意に多かった。生きがいを示す評価項目は 2 群間で差はなかった。家事平均時間は 2 群間で有意な差はなかったが、P 群では家事負担感を感じている男性が J 群と比べ有意に多かった。看護師では努力・報酬得点比は 2 群間に有意な差は認めなかった。男女別でも同様の結果であった。一般的健康 GHQ も両群間に差はなかったが、P 群では J 群と比べ睡眠時間が短いと回答したものが有意に多かった（6 時間以上の睡眠：1(5%) vs 85(57.0%),  $P < 0.001$ ）。P 群では平均家事時間は男女ともに J 群よりも長かったが、人的サポート資源への満足度は高く、家事負担感に差は認めなかった。

#### < 引用文献 >

- 1) パーソル総合研究所・中央大学．労働市場の未来推計 2030.2018.  
[https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUK EwiF0of5-7X7AhXwkYkEHX40CA8QFnoECBAQAQ&url=https%3A%2F%2Frc.persol-group.co.jp%2Fnews%2Ffiles%2Ffuture\\_population\\_2030\\_4.pdf&usq=AOvVaw3j0024uXl4q1TroOEC MnMM](https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUK EwiF0of5-7X7AhXwkYkEHX40CA8QFnoECBAQAQ&url=https%3A%2F%2Frc.persol-group.co.jp%2Fnews%2Ffiles%2Ffuture_population_2030_4.pdf&usq=AOvVaw3j0024uXl4q1TroOEC MnMM)（参照：2024.5.25）
- 2) Organisation for Economic Co-operation and Development. Health at a Glance 2023 Country Note, Japan.  
<https://www.oecd.org/japan/health-at-a-glance-Japan-EN.pdf>（参照：2024.5.25）。
- 3) 共同参画 No28, 2010 年 10 月号及び、No156, 2022 年 6 月号、内閣府 特集 / 地域における男女共同参画の推進について 2010 Oct 及び 特集 / 諸外国の経済分野における女性比率向上に係るクオータ制等の制度・施策等に関する調査他 June 2022  
[https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2010/201010/201010\\_07.html](https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2010/201010/201010_07.html)  
<https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202206/pdf/202206.pdf>  
（参照：2023.4.25）
- 4) 北村俊則. 精神症状測定の実論と実際; 評価尺度, 質問票, 面接基準の方法論的考察. 東京, 海鳴社, 1988; 25-55.
- 5) Haddock CK, Poston WS, Pyle SA, Klesges RC, Vander Weg MW, Peterson A, Debon M. The validity of self-rated health as a measure of health status among young military personnel: evidence from a cross-sectional survey. Health and Quality of Life Outcomes. 2006;4(1): 1-9.
- 6) 堤明純. 職場環境等改善のための「努力 - 報酬不均衡モデル職業性ストレス調査票」活用マニュアル 厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究費研究「職場環境等の改善を通じたメンタルヘルス対策に関する研究」班 平成 14 年度～16 年度総合研究報告書. 2005; 239-254. 2005.  
[http://www.tmu-ph.ac/pdf/090716\\_03.pdf](http://www.tmu-ph.ac/pdf/090716_03.pdf).（参照：2023.4.25）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 22件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Haresaku Satoru, Chishaki Akiko, Hatakeyama Junko, Yoshinaga Yasunori, Yoshizumi Junko, Yamamoto Mito, Matsuzaki Etsuko, Hamanaka Ippei, Tsutsumi Takashi, Taniguchi Yusuke, Ohgi Kimiko, Yoneda Masahiro	4. 巻 9
2. 論文標題 Current status and factors of periodontal disease among Japanese high school students: a cross-sectional study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BDJ Open	6. 最初と最後の頁 online publish
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41405-023-00149-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 晴佐久悟、榑木晶子、畠山純子、吉永 泰周、吉住潤子、山本末陶、松崎英津子、濱中一平、堤 貴司、谷口祐介、大城希美子、米田 雅裕	4. 巻 49(2)
2. 論文標題 わが国の高校生の歯周病の現状とその要因：横断研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福岡歯科大学学会雑誌	6. 最初と最後の頁 53-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 谷口 奈央, 米田 雅裕, 畠山 純子, 吉永 泰周, 松崎 英津子, 濱中 一平, 堤 貴司, 谷口 祐介, 大城 希美子, 山本 繁, 大曲 紗生, 山元 繁, 内藤 麻利江, 榑木 晶子	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 高校生における口臭の自覚とその関連要因	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジャパンオーラルヘルス学会誌	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉永泰周, 米田雅裕, 畠山純子, 松崎英津子, 谷口奈央, 濱中一平, 堤 貴司, 谷口祐介, 大城希美子,	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 高等学校の歯科健診における結果通知による影響と歯周疾患の関連要因の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジャパンオーラルヘルス学会誌	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 樽木晶子	4. 巻 18(1)
2. 論文標題 多職種連携による口腔と全身の健康を目指した健康診断の取組み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジャパンオーラルヘルス学会誌	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawatari H., Chishaki A., Rahmawati A., Ando S.	4. 巻 67
2. 論文標題 Growth related changes in the influence of obesity on signs suggesting sleep disordered breathing and sleepiness in young individuals with Down syndrome	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Intellectual Disability Research	6. 最初と最後の頁 1150 ~ 1160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jir.13079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takase Susumu, Mukai Yasushi, Nagaoka Kazuhiro, Ogawa Kiyohiro, Kawai Shunsuke, Honda Nobuhiro, Nagayama Tomomi, Tohyama Takeshi, Inoue Shujiro, Sadamatsu Kenji, Tashiro Hideki, Sakamoto Kazuo, Matoba Tetsuya, Chishaki Akiko, Kinugawa Shintaro, Tsutsui Hiroyuki	4. 巻 47
2. 論文標題 Mapping of Purkinje related ventricular arrhythmias by a multispline catheter with small and close paired electrodes: Comparison with conventional catheters	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Pacing and Clinical Electrophysiology	6. 最初と最後の頁 5 ~ 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pace.14906	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 NISHIKITANI Mariko, IZUKURA Rieko, SAWATARI Hiroyuki, A. KIDO Mizuho, MORIYA Fukuko, KAWANAMI Shoko, YASUMOTO Sawa, TAKETOMI Kikuko, FUJINO Yuriko, NAGAYOSHI Kinuko, KATO Kiyoko, NAKASHIMA Naoki, CHISHAKI Akiko	4. 巻 16
2. 論文標題 大学病院における医療職者の努力 - 報酬不均衡モデルによる職業性ストレスと労働災害・医療事故との関係	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Safety and Health	6. 最初と最後の頁 117 ~ 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2486/josh.JOSH-2023-0004-GE	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鳥羽 好和, 青木 久恵, 晴佐久 悟, 門司 真由美, 三好 麻紀, 加峯 奈々, 中島 富有子, 中西 真美子, 原 やよい, 樗木 晶子	4. 巻 7(1)
2. 論文標題 病院看護師が実施する高齢患者の口腔機能に関するアセスメントおよびケアの実態調査	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 看護と口腔医療	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Haresaku Satoru, Naito Toru, Aoki Hisae, Miyoshi Maki, Monji Mayumi, Umezaki Yojiro, Miyazono Mami, Egashira Rui, Chishaki Akiko	4. 巻 24
2. 論文標題 Development of interprofessional education programmes in nursing care and oral healthcare for dental and nursing students	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 381
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-024-05227-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sakamoto Kazuo, Mukai Yasushi, Kawai Shunsuke, Nagaoka Kazuhiro, Inoue Shujiro, Takase Susumu, Yakabe Daisuke, Ikeda Shota, Mannoji Hiroshi, Nagayama Tomomi, Chishaki Akiko, Tsutsui Hiroyuki	4. 巻 17
2. 論文標題 Intra-atrial activation pattern is useful to localize the areas of non-pulmonary vein triggers of atrial fibrillation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0264894
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0264894	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎啓子, 井上彩香, 澤渡浩之, 吉本祐子, 坂本一郎, 山村健一郎, 新原亮史, 谷口初美, 樗木晶子	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 成人先天性心疾患女性のリプロダクティブ・ヘルス向上にむけた妊娠出産に関する予備的調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本小児循環器学会雑誌	6. 最初と最後の頁 105 ~ 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 新原亮史, 澤渡浩之, 山崎啓子, 姜旻廷, 坂本一郎, 山村健一郎, 永田弾, 筒井裕之, 樽木浩朗, 得能智武, 樽木晶子	4. 巻 38(2)
2. 論文標題 フォロー四徴症修復術後患者の社会的自立状況と生活習慣の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本小児循環器学会雑誌	6. 最初と最後の頁 128 ~ 139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Tasuku, Sakamoto Ichiro, Hiasa Ken-ichi, Kawakubo Masateru, Ishikita Ayako, Umemoto Shintaro, Kang Min-Jeong, Sawatari Hiroyuki, Chishaki Akiko, Shigeto Hiroshi, Tsutsui Hiroyuki	4. 巻 39
2. 論文標題 High-echoic line tracing of transthoracic echocardiography accurately assesses right ventricular enlargement in adult patients with atrial septal defect	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The International Journal of Cardiovascular Imaging	6. 最初と最後の頁 87 ~ 95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10554-022-02712-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita Yumiko, Izukura Rieko, Kishimoto Junji, Kanaoka Maki, Fujita Hayato, Ando Koji, Nagai Shuntaro, Akiyoshi Sayuri, Tagawa Tetsuzo, Kubo Makoto, Inokuchi Junichi, Ohuchida Kenoki, Oki Eiji, Tanaka Kentaro, Eto Masatoshi, Yoshizumi Tomoharu, Nakamura Masafumi, Chishaki Akiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Reliability, validity, and responsiveness of the Japanese version of the EORTC QLQ-ELD14 in evaluating the health-related quality of life of elderly patients with cancer	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Cancer Research and Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00432-022-04414-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawatari Hiroyuki, Rahmawati Anita, Moriyama Nobuko, Fujita Kanae, Ohkusa Tomoko, Nao Tomoko, Hashiguchi Nobuko, Nishizaka Mari, Ando Shin-ichi, Chishaki Akiko	4. 巻 4
2. 論文標題 Characteristics of sleep-disordered breathing in children with down syndrome - A comparison with typically developing children	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sleep Medicine: X	6. 最初と最後の頁 100045 ~ 100045
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sleepx.2022.100045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本 繁, 畠山 純子, 山田 和彦, 吉永 泰周, 谷口 奈央, 濱中 一平, 松崎英津子, 谷口 祐介, 堤 貴司, 大城希美子, 大曲 紗生, 晴佐久 悟, 樋口 勝規, 樺木 晶子, 米田 雅裕	4. 巻 17
2. 論文標題 臨床研修歯科医口腔健診研修への QLF ライトの活用 診査スキルアップ効果の検証	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジャパンオーラルヘルス学会誌	6. 最初と最後の頁 30~36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taketomi K, Ito Y, Tokunaga E, Hirano Y, Fujino Y, Chishaki A	4. 巻 31 (5)
2. 論文標題 Developing a Questionnaire on the Quality of Working Life for Female Medical and Healthcare Professionals	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Industrial Health	6. 最初と最後の頁 385-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2486/indhealth.2020-0257	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mukai Y, Kawai S, Inoue S, Takase S, Sakamoto K, Nagaoka K, Chishaki A, Tsutsui H.	4. 巻 37(2)
2. 論文標題 Bigeminal potentials in the pulmonary vein indicate arrhythmogenic trigger of atrial fibrillation.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Arrhythm	6. 最初と最後の頁 331-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/joa3.12462. eCollection 2021 Apr.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuzaka Y, Kamiya CA, Konishi TY, Shionoiri T, Nakanishi A, Iwanaga N, Chishaki A, Kurosaki K, Ohuchi H, Yoshimatsu J	4. 巻 4
2. 論文標題 Breastfeeding and postpartum outcomes among women with congenital heart disease.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Cardiology Congenital Heart Disease	6. 最初と最後の頁 100-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijcchd.2021.100167	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawai S , Mukai Y , Inoue S , Yakabe D, Nagaoka K , Sakamoto K , Takase S , Chishaki A , Tsutsui H	4. 巻 33
2. 論文標題 Location and coupling interval of an ectopic excitation determine the initiation of atrial fibrillation from the pulmonary veins	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Cardiovasc Electrophysiol.	6. 最初と最後の頁 629-637
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jce.15371	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita K, Chishaki H, Ando S, Chishaki A	4. 巻 20
2. 論文標題 Sex differences in the effectiveness and affecting factors to adherence of continuous positive airway pressure therapy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sleep and Biological Rhythms	6. 最初と最後の頁 191-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41105-021-00355-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 山崎啓子、新原亮史、澤渡浩之、坂本一郎、山村健一郎、宗内淳、樽木晶子
2. 発表標題 成人先天性心疾患患者の疾患重症度別でのセルフケア行動の特徴と必要な支援の検討
3. 学会等名 第87回日本循環器学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyazono M, Chishaki A, Kakumori T, Haresaku S, Machishima K, Miyasaka K, Kansui A, Matsuo R, Yamanaka T, Kojima M, Naito T
2. 発表標題 Japan-U.S. Survey of Oral Health Care Practices by Visiting Nurses at Home
3. 学会等名 International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG)-Asia Oceania Regional Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 晴佐久悟、内藤徹、梅崎陽二郎、江頭留依、宮園真美、門司真由美、三好麻紀、青木久恵、樽木晶子
2. 発表標題 A development of interprofessional education of nursing care and oral healthcare programs for dental and nursing students
3. 学会等名 第71回国際歯科研究学会日本部会 [ JADR ] 総会・学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内藤麻利江、谷口奈央、藤本暁江、矢田部尚子、島津篤、米田雅裕、樽木晶子
2. 発表標題 産婦歯科健診の新たな導入と妊産婦歯科健診受診向上を目指した取り組み
3. 学会等名 第50回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 内藤徹、梅崎陽二郎、江頭留依、益崎与泰、青木久恵、宮園真美、晴佐久悟、三好麻紀、門司真由美、樽木晶子
2. 発表標題 歯学生と看護学生を対象とした看護・口腔ケアの多職種連携教育プログラムの開発
3. 学会等名 第50回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 樽木晶子、晴佐久悟、飯野英親、村松真澄、三好麻紀、門司真由美、宮園真美、中島富有子、内田荘平、秋永和之、青木久恵、前田ひとみ、小布施未桂、高野佳範、内藤徹
2. 発表標題 口腔ケアのOSCE教育・多職種間連携教育を考える
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 永野英美、榑木晶子
2. 発表標題 医療的ケア児の医療関連機器圧迫創傷ケア経験における訪問看護師の医療関連機器圧迫創傷予防ケアの実態
3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 榑木晶子
2. 発表標題 子育ては感謝のきもちで ~ 女性医師達の奮闘の果てに見えたもの ~
3. 学会等名 宮崎県産婦人科医会・宮崎県産科婦人科学会 秋季定時総会・市民公開講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiko Chishaki
2. 発表標題 Survey on healthcare professionals' working style and health and safety
3. 学会等名 Kyushu University Asia Week 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 榑木晶子
2. 発表標題 多職種連携による口腔と全身の健康を目指した健康診断の取組み
3. 学会等名 ジャパンオーラルヘルス学会第24回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉永泰周、米田雅裕、谷口奈央、松崎英津子、畠山純子、濱中一平、堤貴司、谷口祐介、大城希美子、大曲紗生、山本繁、晴佐久悟、樗木晶子
2. 発表標題 高等学校における歯周疾患の健診結果通知による影響と関連要因の検討
3. 学会等名 ジャパンオーラルヘルス学会第24回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷口奈央、米田雅裕、吉永泰周、松崎英津子、畠山純子、濱中一平、堤貴司、谷口祐介、大城希美子、大曲紗生、山本繁、晴佐久悟、樗木晶子
2. 発表標題 学校健診結果にもとづく高校生の口臭に対する意識の実態とその要因についての検討
3. 学会等名 ジャパンオーラルヘルス学会第24回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷口奈央、米田雅裕、畠山純子、吉永泰周、松崎英津子、濱中一平、堤貴司、谷口祐介、大城希美子、大曲紗生、山本繁、晴佐久悟、樗木晶子
2. 発表標題 学校歯科検診結果にみる高校生の口臭の自覚とその関連要因
3. 学会等名 第49回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉永泰周、米田雅裕、谷口奈央、松崎英津子、畠山純子、濱中一平、堤貴司、谷口祐介、大城希美子、大曲紗生、山本繁、晴佐久悟、樗木晶子
2. 発表標題 高等学校の歯科健診における結果通知による影響と歯周疾患との関連要因の検討
3. 学会等名 第49回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮田潤子、橋口暢子、貝沼茂三郎、金岡麻希、近藤琢也、入江敬子、田尻達郎、濱田正美、樽木晶子
2. 発表標題 看護師の漢方医学への関心とセルフケアに関する調査研究(第2報)
3. 学会等名 第71回東洋医学学会発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樽木晶子
2. 発表標題 健診センターの活動と福岡看護大学大学院設置
3. 学会等名 第48回福岡歯科大学総会・学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 畠山純子 谷口奈央、松崎英津子、吉永泰司、濱中一平、牧野路子、堤貴司、谷口祐介、大曲紗生、山本繁、米田雅裕、樽木晶子
2. 発表標題 福岡歯科大学健診センターによる学校歯科健診における高校生アンケート調査
3. 学会等名 第48回福岡歯科大学総会・学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米田雅裕、畠山純子、谷口奈央、松崎英津子、吉永大周、濱中一平、谷口祐介、堤貴司、牧野路子、大城希美子、宮園祥爾、佐々木三奈、馬場篤子、高田俊輔、永井淳、阿南壽、樽木晶子
2. 発表標題 新規開発口腔健診用QRライトの有効性確認—臨床研修歯科医に関する調査
3. 学会等名 第48回福岡歯科大学総会・学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 錦谷 まりこ, 城戸 瑞穂, 中川 朋子, 安元 佐和, 守屋 普久子, 川波 祥子, 武富 貴久子, 藤野 ユリ子, 永吉 絹子, 伊豆倉 理江子, 加藤 聖子, 中島 直樹, 榑木 晶子
2. 発表標題 大学病院における医療職者の働き方と健康・安全との関係
3. 学会等名 第37回日本ストレス学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 榑木晶子
2. 発表標題 現役の不整脈薬物治療
3. 学会等名 第15回日本性差医学・医療学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本江純子、榑木晶子、富岡智子、神谷千津子
2. 発表標題 JJC Pioneersに聞く！これからの私たちの進む道
3. 学会等名 第86回日本循環器学会学術集会（JCS2022）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 榑木晶子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 3
3. 書名 総合診療 2022年11月号 特集 不定愁訴にしない“MUS”診療 病態からマネジメントまで 「動悸・胸痛 診断の進め方のポイントは？」	



1. 著者名 樽木晶子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 3
3. 書名 総合診療 特集 ライフステージで見る女性診療at a glance! 「微小血管狭心症と診断する決め手は?」	

1. 著者名 樽木晶子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本循環器病予防学会	5. 総ページ数 11
3. 書名 日本循環器病予防学会誌 「心電図診断制度向上へのチャレンジと心疾患二次予防の20年」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 聖子 (Kato Kiyoko)  (10253527)	九州大学・医学研究院・教授  (17102)	
研究分担者	澤渡 浩之 (Sawatari Hiroyuki)  (30757034)	広島大学・医系科学研究科(保)・助教  (15401)	
研究分担者	錦谷 まりこ (Nishikitani Mariko)  (40327333)	神奈川県立保健福祉大学・ヘルスイノベーション研究科・客員研究員  (22702)	変更: 2023年11月1日

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	工藤 孔梨子 (Kudo Kuriko)  (50644796)	九州大学・大学病院・講師  (17102)	
研究分担者	中島 直樹 (Nakashima Naoki)  (60325529)	九州大学・大学病院・教授  (17102)	
研究分担者	磯部 紀子 (Isobe Noriko)  (60452752)	九州大学・医学研究院・教授  (17102)	
研究分担者	川波 祥子 (Kawanami Shoko)  (70449940)	産業医科大学・産業医実務研修センター・教授  (37116)	
研究分担者	樽木 浩朗 (Chishaki Hiroaki)  (70607093)	保健医療経営大学・保健医療経営学部・教授（移行）  (37127)	
研究分担者	伊豆倉 理江子 (Izukura Rieko)  (80805292)	宮崎大学・医学部・准教授  (17601)	変更：2023年6月1日
研究分担者	永吉 絹子 (Nagayoshi Kinuko)  (90761015)	九州大学・大学病院・助教  (17102)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------